

令和5年(2023年)8月29日(火曜日)



渡辺専務(左)に取材するキッズクリエーターの小中学生ら＝三島市南本町の「三島梅花藻の里」(提供写真)

三島版コロマガ取材着々

12月の初発行を目指す三島版子どもローカルマガジン(コロマガ)「みしまんま」の制作実行委員会(門倉京子代表)は、記事を担当するキッズクリエーターによる取材を三島市内各所で進めている。27日は南本町の「三島梅花藻の里」で、小中学生4人が環境保全団体の関係者から聞き取りし、清掃も体験した。

同制作実行委は今夏、小中学生11人による本格的な取材をスタートさせた。飲食店や福祉団体、農業者、観光施設、自然関連団体などの協力を得て、子どもならではの視点で体験を伴う活動を続けている。それぞれが文章や写真、イラストを担当し、誌面化に向けた編集作業にも順次取り組んでいる。

梅花藻の里 清掃も体験

小中生4人

「三島梅花藻の里」では、管理と維持を続けるNPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博専務に取材した。参加した小中学生は、湧水の水質に深い関係があるシマバヤイカモや、市内の水辺復活と保護を30年以上続けている「思い」などについて質問した。ほうきでシマバヤイカモのぬめりや泥を「抜く」作業も行った。門倉代表は「発行を知った多くの人から協力や支援をいただいている。取材する子どもたちを見かけたら、温かく見守ってほしい」と話している。三島版コロマガについては、みしまコロマガ制作実行委員会のインスタグラムやコロマガプロジェクトの関連検索(リンク)で。

初発行 12月目指す